



北雄の翼2023

参加生徒の感想

英語のスキルだけでなく、何かをつかみに来た周りの仲間の姿が一番心に残っています。誰のどんな話でも前かがみで聞いて、食らいついていく仲間にごく励まされた10日間でした。私自身、最初は英語のスキルアップの一環として、この研修に申し込みましたが、研修中は何か自分にないものを見つけるために、それを持っているかもしれない周りの人とのコミュニケーションを大切に、自分から話しかけたり、発表したりする回数が増えていきました。「間違いを恐れない」以前に「自分から動くことを恐れない」。これがないと何も始まらないと実感しました。この気持ちを忘れず、日々挑戦していきたいと思います。

2C 佐々木 奈菜子

この研修を通して、最大限の英語の能力を出ることができて、自分自身の考えを持っていなければ話すことすらできないことを痛感した。英語を話すには、心の中で日本語から英語に変換するのが基本的な流れではあるが、日本語で考える段階でつまづき、言葉に詰まる場面が何度かあった。これは現地に滞在し、現地に住む人と6日間にわたって英語でコミュニケーションを取ってきたからこそ実感できたことで、とても貴重な経験になった。言葉が出てこず、相手にうまく伝えられなかったたびに感じた悔しさもまた、それを教えてくれたのではないかと思った。この研修の一つ一つの出会いで学んだことを大切にしていって日々を過ごしていきたい。

2C 成田 圭

ボストンの街中で、文化の違いを肌で感じた。日本ではありえないが、地下鉄の中で電話で話したり、上半身裸で自転車に乗ったりしている人々を見て、周りを気にせず自分のしたいことを堂々とする人間性を感じた。最終プログラムのプレゼン発表は、研修の集大成となった。おのおのが今回の研修で学んだことを生かして、今後どのように生きたいかを示した。皆がおのおのの意志を、自信を持って発表した。自己主張が許される雰囲気の中、私はリラックスして発表できた。今回の研修は私に強烈な刺激を与えた。参加者には、人生の方向が大きく変わった人、自身の望む道により自信を持った人もいと思う。何よりも、北雄の翼を支えてくださった方々に感謝します。

2G 佐藤 一進

現地で活躍されている日本人の方の講話が印象的でした。日本でずっと過ごしていたなら持ち得ないような視点からのお話で、その中でも「積極性は『習慣』、つまり努力をして少しずつ身に付けていくものだ」という言葉が、特に心に残っています。積極的な人間になれるように、前向きに努力し続けたいです。また、以前の自分は高校、大学、就職...という流れの中に生きていてと考えていましたが、実際にはさまざまな選択肢があり、挑戦し続ける限り失敗しても何度でもやり直せるということ、研修全体を通して学びました。英語にたくさん触れられたのはもちろん、社会や進路に対する考え方も大きく変わった有意義な研修でした。

2F 渡辺 裕名

英語は話さないと始まらない。話さなければ伝わらないし、分かるまで尋ねなければいけない。英語は日本語と違って、話し手に責任がある言語である。この差に最初は困惑していた。特にホームステイで分かっているのに、「OK」を連発してしまっ。日本では質問することははばかられ、したくても雰囲気のにまれてできないことがある。しかし、アメリカではそのようなことは少ない。日本とは重点を置いているところが違うが、そうした違いというものを理解して外国に行くことがマナーのように感じられる。今回は非常に面白い経験ができた。

2G 鈴木 悠太

このプログラムでは、貴重な環境の中で普段は出会えない方々の経験や考えに触れることができました。現地の学生らとのディスカッションにおいても、自身との考えの違いや積極性の重要さを強く実感しました。一番大切なのは自分が聞いた話や得た経験などに対し、常に自分の意見を持つことだと思います。特に英語のプログラムだと、話を聞くことに精いっぱい質問や感想をしっかりと考えられず、悔しかったです。北雄の翼で感じたことを忘れず、自分の考えや自分自身を見つめ直すきっかけにしていきたいです。

2D 岩崎 直央



事務局通信

創立120周年記念で建設した通称同窓会館「校史資料館・羽城館」の展示ホールは、同窓会の委員会・年次幹事会、学校関係の会議・生徒行事などでも活用されている。お盆前に150周年記念事業予算でエアコンを設置した。天井照明も水銀灯からLEDに更新し利用者から大変喜ばれている。開館は平日の10時から16時だが、要望があれば休日・時間外もできるだけ対応しているのをご相談を。(悦)

編集後記

広報委員会は3年ごとに全員が交代するので今回は全員が編集初体験。それなのに全国大会に行った部活が多かったりコロナ収束で同期会などが目白押しだったため五里霧中で編集を始めた114号を28ページに増やしてしまった。しかし、新委員の皆さんがしっかりとコミットしてくださった上、前委員会から継続して編集に加わってくださったS委員、校正に加わってくださった1元委員長の方の多大なるご貢献により、なんとかゴールに到達できた。(なべっこ遠足)